

令和5年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・中学年のアルティメットや、高学年のハンドボールなど、新しい教材の開発が進んだ。これらの学習活動を通してどんな力をつけていくのかをさらに明確にして、年間指導計画に入れ込んでいくようにする。
- ・学習カードや ICT の活用を通して、運動のポイントへの理解が高まり、友達と動きを見合って助言し合う活動が充実した。特に、導入時に運動の参考動画などを視聴させることで、運動への関心も高まった。

(2) 課題

- ・タブレットを使用して、手本となる動画を見せたり自分の動きを振り返らせたりしたが、校庭の体育では、埃が入ってしまうこともあり使いづらかった。また、タブレットを使用すると、運動量が減ってしまうことが課題だった。運動量の確保と、ICT 機器の利用のバランスを考えて使用していく必要がある。
- ・運動の日常化については、ボールや大縄などの道具や学習カードを計画的に配るようなしかけが必要だった。
- ・めあてに正対した振り返りが書ける児童が少なかった。めあての例を示すことや、振り返りの観点を明確にすることで、継続して指導していく必要がある。
- ・水泳指導があまりできなかった。一方的な指導になりがちだった。学び合いになるような指導方法を共有していくようにする。

2 分析（観点別）

①低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・体幹、腕や足の筋力が十分でない児童がいる。 ・気を付けの姿勢、50m走でまっすぐに走ることなど、基礎的・基本的な技能が身に付いていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてカードを提示すると、めあてを具体的に捉え頑張ることができる児童が多い。 ・運動の工夫（しっぽ取りで、どのように動けば取りやすかったり取られづらかったりするのかな等）を自発的に考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことが好きな児童が多い。 ・縄跳びやマラソンに意欲的に取り組む児童が多い。 ・経験不足が顕著で、ボールや水泳など、怖がって取り組めない児童が多い。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒など、固定遊具を使った運動の技能が低い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でめあてを選ぶことが難しい児童がいる。 ・運動するときのこつに気付き、友達に伝えられる児童がいる一方で、自分の動きを振り返ることが難しい児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら用具の準備・片付け、活動に意欲的に取り組むことができる。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・領域によって、得意・不得意がはっきりしている。特に器械運動やボール運動については、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用して自分の運動している姿を客観視することで、自己の課題に気付けた児童が多かった。 ・めあてに正対した振り返りを書こうとする意識が高まったが、具体的に書ける児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対してすすんで取り組む児童が多い一方で、運動の楽しさを味わうことができず、学習への意欲を味わえない児童もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 準備運動などで、体幹の強化につながる運動遊びを取り入れる。 身に付けさせたい動きを教師が明確にしたうえで、その動きにつながる運動遊びを取り入れる。 いろいろな動きを一回の授業内で行えるように計画し、運動経験を積ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてカード等を活用し、自分の課題や到達すべき目標を可視化して提示できるようにする。 動きのポイントを焦点化し、お互いの運動を見合う時間を設ける。また、友達のよい所や、自分が見つけた運動のこつ発表させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に取り組める導入や場の設定を行うようにする。児童相互でよいところを見付けあったり励ましあったりする時間を設定する。 一学級一取り組みを授業の最初や休み時間に取り組むことで運動の日常化を図る。 運動経験が少ない児童も怖がらずに取り組めるようスモールステップで活動に取り組ませる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 休み時間も使える鉄棒のカードを活用して日常化を目指しながら、技能の向上を図る。 運動の正しい動きを例示したり、掲示したりすることで技能のポイントを理解できるようにする。 基本となる動きや知識を単元の前半で重点的に指導することで、後半の発展的な運動やゲームがスムーズに行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えたり、書いたりする時には、観点や具体例を示したりすることで、教科のねらいに沿った思考、表現力を伸ばしていくようにする。 教師がめあてを提示して、児童が自分に合っためあてを選択しやすいようにする。 良い例とそうでない例を提示することで、2つの例を比べて動き方のよさや運動するときのこつを考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入に運動の参考動画等を視聴させることで、運動への関心を高める工夫をする。 運動が苦手な児童が取り組みやすいように、準備運動や補助運動の内容を簡単な動きで構成されるものに工夫する。 準備や片付け、活動中での協力する姿を大いに賞賛して価値付けする。 運動中にも積極的に肯定的な励ましや助言を行うことで、主体的に活動に取り組めるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 運動のポイントを正しく知ることができるようカードや掲示物、ICT 機器を活用しながら運動に取り組む。 器械運動・ボール運動では、児童の能力に合わせた場を設定し、スモールステップで達成感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードや ICT を活用し、チームの特徴に応じた作戦や、それぞれの運動のよりよい動きについて考えられるようにする。 課題の達成に向けて、ルールを工夫したり、自分に合った場や練習方法を選んだりする場面を設定する 児童相互で見合う、教え合う活動を取り入れ、ポイントやこつを理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業の「ねらい」「めあて」を明確にし、一人一人が課題をつかめるようにする。 めあてを達成するための十分な運動量の確保を行う。 ICT 機器を活用しながら、運動に取り組む。